

[特集] 社会福祉法人を支える力。理事・監事・評議員の役割。

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第125号

発行2016.4.17

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

# そよかぜだより

**特集**

# 社会福祉法人を 支える力

## 理事・監事・評議員の役割

社会福祉法人そよかぜは、平成21年3月に社会福祉法人格を取得しました。この社会福祉法人ですが、全国に約2万の法人が存在し、年々徐々にですが増加している傾向にあります。

社会福祉法人制度が生まれた背景としては、戦後間もない時期に遡ります。当時は、戦傷病者や戦災孤児、失業者などの生活困窮者の対応に直面していました。戦後の復興が急がれるなか、行政の資源だけでは十分ではありませんでした。そのことから民間の社会福祉事業を活用することが求められ、当時の措置制度を受託する法人として行政から特別な規制と助成を可能とするために特別法人として社会福祉法人が制度化されました。

その後、時代とともに社会福祉の環境も変化し、福祉の対象者の増加や多様化がすすみました。戦後に作られた社会福祉制度そのものに対して、見直しや作り変えが必要となり、社会福祉基礎構造改革が行われました。介護保険制度や障害者自立支援制度(現:障害者総合支援制度)も基礎構造改革の一環でもあり、措置から契約に移り変わったのも大きな特徴です。このように社会福祉法人を取り巻く環境や求められるニ-

ズも大きく変化してきました。

全国で、高齢者や障害者、子ども・子育て、生活困窮者の自立支援など、社会福祉事業を行うことを主たる目的として事業を行うことが社会福祉法人の責務でもあります。

そよかぜの経営理念には、『利用者一人ひとりの想いに寄り添い、誰もが分け隔てなく「人として当たり前の生活を当たり前で送ることが出来る社会」の実現に努めます。そのために、社会福祉法人の使命を自覚し、健全で活力あふれる障害者福祉事業を推進します』となっています。

そよかぜの歴史を振り返ると、今から30年程前に羽村市手をつなぐ親の会の方々が、作業所の建設をするための資金集めとして、バザーや資源回収など手弁当で取り組まれ、地域の方々からも多くの支援や応援を頂いてまいりました。

先達の方々の想いを受け継ぎながら現在でも役員・職員全員が一丸となり、地域の障害福祉の向上を目標に取り組んでいるところでもあります。

今回は、当法人の運営を支えていただいている理事・監事・評議員の方々についてご紹介いたします。

## 理事、監事、評議員、それぞれの役割

### 理事

6名の理事があり、法人の意思決定機関である理事会の構成メンバーとして、法人の業務決定を行い、その責任を負うなど重要な役割を担っています。

### 監事

2名の監事があり、理事の業務執行及び法人の財産の状況について監査を行い、理事会や評議員会で報告など福祉や会計に関する専門性が求められます。

### 評議員

13名の評議員があり、評議員会の構成メンバーとして、法人の業務決定をするに当たり、重要な事項に意見を述べたり、法人の運営が健全に行われているかチェックをする機関です。

## 社会福祉法人そよかぜ役員

### 理事長

野崎功市

### 理事

白井信行

田村義明

田口尚子

堀内政樹

### 監事

羽村義男

石田 茂

### 評議員

井上克巳

川津紘順

橋本唯隆

水上京子

並木伸子

丹生忠三

羽村富男

橋本芳明

川村孝俊

栗原悦男

下田忠男

太田国生

田村志津子

## 寄稿文

この特集を企画したとき、ふと思いました。

役員の方々は、いったいどういう想いで携わってくれているのだろう。

どんなきっかけで役員を引き受けてくれたのだろう。

そんな疑問に、快く応えてくださいました。

本来であれば、すべての方々にお願ひすべきところではありますが、

今回は、現任の理事、監事、評議員21名の中から、

6名の方に寄稿していただきました。

### 理事長

野崎功市

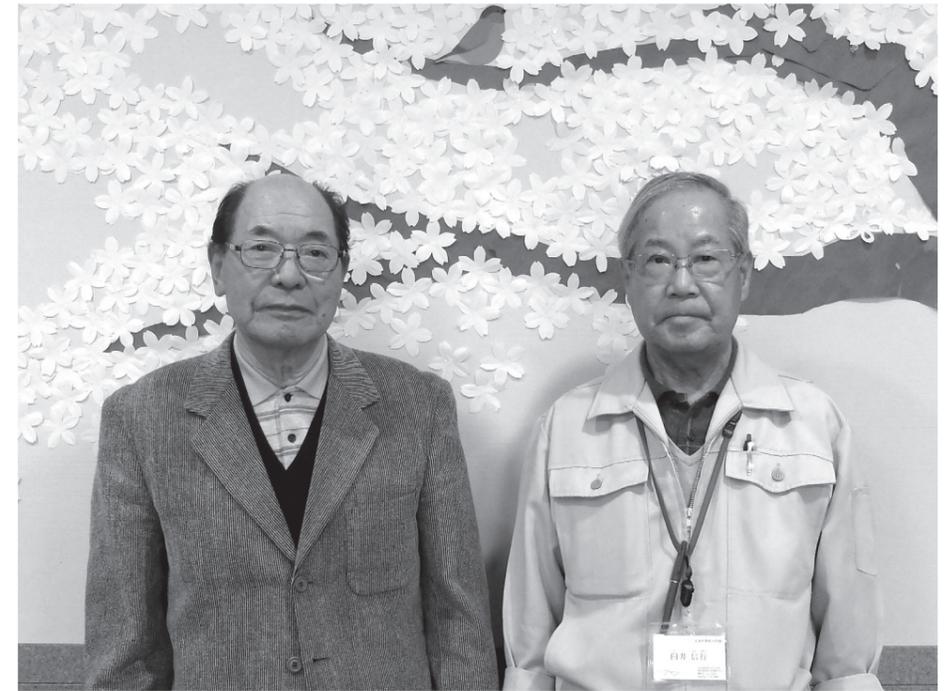
平成15年に「NPO法人障害者団体連絡会そよかぜ」の理事を引き受けましてから、早や14年余りが経ちました。この間、平成20年には「障害者就労支援センター エール」の開所、平成21年3月には念願であった「社会福祉法人化」の実現や「福祉作業所ひばり園」の建設、更に、平成22年度から「福祉作業所スマイル工房」の運営統合など、多くの課題の実現に取り組むことができたような気がしております。利用者が20名足らず、職員も4名程度であった、NPO法人時代のそよ

かぜも、現在は、利用者90名、職員数も30名を超える大きな組織になりました。こうした実績が積み上げられたのも、取りも直さず市当局をはじめ関係行政機関、さらに協力企業、そして何よりも、ご支援をいただいている市民の皆様のお蔭だと思っております。更に、そよかぜが取り組む大きな課題として、スマイル工房の新設計画があります。この実現につきましても市当局、議会、市民の皆様には絶大なご支援、ご協力を頂かなければならないと思っております。そよかぜの大きな目標は、障害を持つ方々が、地域社会の一員として自立して生活が営むことができるよう、支援することを基本としております。これからも、そよかぜの基本姿勢である、地域の社

### 特集

## 社会福祉法人を支える力

### 理事・監事・評議員の役割



写真左から、野崎功市理事長、白井信行理事。

会福祉事業として事業経営の透明化や適正管理を念頭に置き、組織全体のチームワークや人材育成を図ること、そして何よりも利用者を中心とした運営に心掛けて参りたいと考えております。なお、日頃から多忙な中を、そよかぜの運営に携わって頂いている理事、監事、評議会の方々に心から感謝を申し上げます。

これからも微力ではありますが、こうした経営理念のもとに運営してまいりたいと思っておりますので、変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。

### 理事

田口尚子

羽村市手をつなぐ親の会の理事をしているご縁で2年間の評議員を経て、平成27年度から理事の大役をお受けしています。

毎年、秋に行われる交流会をととても楽しみにしています。利用者と職員の信頼関係を感じ、販売している様子やパフォーマンスを観ると笑顔でこちらもうれしくなります。

そよかぜの利用者の中には羽村市手をつなぐ親の会運営のグループホーム・ショートステイを利用している方がいらっしゃいます。これからも情報を交換しつ

よろしくお願ひいたします。

### 理事

白井信行

私が社会福祉法人そよかぜにお世話になったのは、福祉作業所ひばり園で作業のお手伝いをさせていただいたところから始まり、早いもので15年を迎えました。現在の理事に就任し、そよかぜの事業を通して地域の障害者福祉の向上のために、少しでもお役にたてればと日々微力ながら努めている次第です。

ひばり園では障害のある方々が、自動車やオートバイで使用しているベアリングの組み立て作業、農耕機械部品の袋詰め作業など決して引けを取らない実力を持っていると感じています。私なりに仕事に対する姿勢など利用者の方々に少しでもお伝えてしていければと考えております。作業のほかにも利用者の皆さんと一緒に運動で気持ちの良い汗をかいたり、四季折々の行事やレクリエーション、日帰り旅行等にボランティアとして参加させて頂いたりしております。

今後とも誠心誠意に努力してまいりたいと思っておりますので宜しくお願ひ致します。

## 監事 羽村義男

「そよかぜ」との出会い、特定非営利活動法人(NPO法人)から社会福祉法人に組織変更した時でした。

監事の要請を受け、これまで会社の経理業務に携わってきた経緯もあって引き受けることとなりました。

しかし蓋を空けてビックリ、社会福祉法人の会計の仕組みは、独特な会計処理があることなどを知り、一つ

ひとつの紐を解きながら全体を知っていったことを今でも思い出します。

ここで新たに「新会計基準」なる方法で決算処理を迎えることとなり、それに携わる職員の苦労や、規模の小さい事業経営者は制度等が変わる度に日夜努力していると思われま。す。「そよかぜ」も毎月の理事会では、項目(勘定科目)と金額が整然と表示されていますが、もっともっと、施設の経営状態が簡素でわかりやすいものできないか検討している次第です。



写真左から、羽村義男監事、水上京子評議員、栗原悦男評議員。

## 評議員 丹生忠三

私が評議員に就いたのは、理事の方から誘われ、羽村市のためにお役に立つ機会と思ったからです。

委員の方々と触れ合い会話や雑談して役職の理解を深めました。特に「そよかぜ事業所交流会」に焼きそば作りで語り合い和やかな雰囲気に満足でした。

職員・作業所の方が真剣に取り組み、「はたらく喜びにあふれる姿」に感激し、評議員の職務に専念したいと思ひます。

## 評議員 水上京子

私は就職後に点訳を始め、結婚後もお年寄りなどへのボランティアを続けていました。

ところが、長男が25歳で心の病と診断され、保健所の紹介で親の会に入り、ボランティアをしていたのならと会長に推され、その縁でそよかぜの理事になりました。いまから11年前のことです。その後、評議員になりましたが、評議員会の度に配布される資料の山と数字の羅列には、今だにめまがします。このように情け無い状態ですが、少しでもお役に立てるよう、これからは努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 評議員 栗原悦男

町内会長のタスキを次へ渡し、さてこれからのんびりという矢先に、ボランティアグループで長年ご一緒している川津評議員から声を掛けてもらい、「そよかぜ」とご縁ができました。私自身は大分ひねてますが、評議員は



写真左から、田口尚子理事、丹生忠三評議員。

ピカピカの一年生です。家内が以前理事をさせてもらっていた関係で、多少の予備知識はあるつもりでしたがとんでもない、まだ分からないこと沢山あり、ハンディを持ちながらも頑張られている皆さんから学ぶことも沢山あり、といった現在です。労力でしたら多少お役に立つこともあるかもしれないので、声をかけてください。

## 理事兼施設長 堀内政樹

社会福祉法人そよかぜは、法人組織体制上、最高意思決定機関としての理事会、事業運営及び財務状況など法人経営全般を監査する監事、幅広い視点から法人経営に対する評価、助言を行う評議員会を設置しています。健全で安定した法人経営のために大変重要な役割を担う理事会・監事・評議員会ですが、構成メンバーの方々は、全て、無償のボランティアです。行政、教育、福祉、企業などの役職経験者、また、現役の体協会長、町内会長、民生児童委員会役員など、「地域の障害者福祉の発展に貢献する」というそよかぜの理念にご賛同いただき、法人経営にご協力していただいています。

肩書や経歴などからは近寄り難い印象ですが、皆さんとても気さくで、利用者や職員に優しくあたたかく接してくれます。法人の年中行事である「そよかぜ事業所交流会」で

は、朝から総出で焼きそば店を担当し、地域の行事で鍛えた(?)腕前を存分に発揮して美味しい焼きそばを皆にふるまったり、ゲームやミニ運動会なども一緒に楽しめます。一方、それぞれの立場から、法人や各事業所が進むべき方向やあるべき姿などを踏まえた鋭い指摘や的確な助言を通して、私たち現場職員を導いてくださいます。また、皆さんが持つ地域との太いつながりも、そよかぜの大きな力になっています。

国会では、社会福祉法人制度改革を柱とした社会福祉法改正案が3月31日、衆議院本会議で可決、成立しました。この法人制度改革では、法人経営における評議員会の権限強化なども含まれており、その役割は一層重要になっていくことが予想されます。これからは、そよかぜが地域に求められる社会福祉法人であるために、理事会・監事・評議員会という経営組織の力と現場職員の力が一つになって、弛まぬ努力を重ねていくことが大切なのだという思いを新たにしています。

# 平成28年度事業計画概要

平成28年度は、経年の課題となっている福祉作業所スマイル工房の移転事務について、7月に予定されている国の施設整備費補助事業への申請も視野に着実な前進を図っていきます。また、最近のサービス利用希望者や相談者の障害種別をみると、精神障害・広汎性発達障害・高次脳機能障害・難病およびそれに伴う障害、さらにはこれらの重複障害など多様化が進んでおり、こうした変化に対応できるよう職員のスキルアップに努めます。本年度、そよかぜは次の6事業を実施します。

## 社会福祉事業

**福祉作業所ひばり園** (就労移行支援＝定員6名)

一般就労を希望する65才以下の知的障害者に、就労に必要な知識及び能力の向上のための訓練等を提供します。特に、業務のマニュアル化やビジネススキル訓練の計画的な実施、職場定着支援など重点的に取り組みます。

**福祉作業所ひばり園** (就労継続支援B型＝定員70名)

障害者に就労や日中活動の機会を提供し、地域での自立した生活を支援します。新たに始まった企業内作業や新規受注の仕事を軌道に乗せることに注力します。利用者の高齢化が進む傾向にあり健康増進にも力を入れます。

**福祉作業所スマイル工房** (就労継続支援B型＝定員20名)

障害者に就労や日中活動の機会を提供し、地域での自立した生活を支援します。施設老朽化に伴う移転計画という大きな課題に取り組みつつ、日々の授産活動をしっかり

りと実施していきます。パンやクッキーの新商品開発へのチャレンジなど積極的に行うとともに質の高いサービス提供と職員のスキルアップに努めます。

## 指定特定相談支援事業所ゆい

障害者の自立生活を支え、障害者の抱える課題の解決や適切なサービスの利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援します。開所後1年を経過し、事業のさらなる充実を図ります。

## 公益事業

**羽村市障害者就労支援センター エール**

障害者の一般就労の機会拡大を図るとともに、障害者が安心して働き続けられるよう支援します。本年度より、職場開拓促進コーディネーター1名を配置し、より充実した相談支援に努めます。

## 収益事業

**資源回収**

羽村市が掲げる資源リサイクル推進の方針に沿って、ボランティアと協働して古紙を中心とする資源回収事業を行います。福祉作業所ひばり園の授産活動における施設外支援にも協力します。

本年度も引き続き市当局をはじめ関係諸機関との連携、協力を密にし、実施事業一つひとつのさらなるレベルアップを図り、地域の障害者福祉の発展増進に努めます。

## 平成28年度 社会福祉法人そよかぜ当初予算額

### 事業別支出内訳

法人総支出額 ¥194,134,000※

※内部取引調整後の値



社会福祉事業  
¥173,062,000  
87%

公益事業  
¥22,283,000  
11%

収益事業  
¥4,512,000  
2%

### 公益事業支出内訳

総支出額 ¥22,283,000

羽村市障害者就労支援センター エール  
¥22,283,000 100%

### 社会福祉事業支出内訳

総支出額 ¥173,062,000



法人本部  
¥1,059,000  
1%

福祉作業所ひばり園  
(就労継続支援B型)  
¥123,043,000 71%

福祉作業所スマイル工房  
¥31,014,000  
18%

指定特定相談支援事業所ゆい  
¥1,950,000  
1%

### 収益事業支出内訳

総支出額 ¥4,512,000

資源回収  
¥4,512,000 100%



【連載】

# そよかせのご近所さん

ここ羽村市近隣地域には、たくさんの福祉施設があります。それぞれの施設では、様々な特色を活かした取り組みを行っています。意外と知らないことも多い他の施設の様子、見せてもらいました。

〈第5回〉

## リンデンハウス

(日の出町大久野)

このグループホームには30～50歳の障害のある男女7人が暮らしています。みんな平日は朝ご飯を食べて近隣の作業所へ働きに出て、週末は地域の活動に参加するなど、日々一生懸命に過ごしています。「地域で行事があれば参加し、道端で会えば挨拶をして顔を覚えてもらう。地域に知ってもらい、溶け込む。助け合い、あたたかく守られるように」取材した日は地域のお祭り用の花飾りを作り出かけていました。毎日の生活の中では食事の配膳や施設内の掃除など当番制にし、みんなで協力して生活しています。「自分のことは、できるだけ自分でできるように、ここを出てもちゃんと生きられるように、それを目標に10年先を見据えて支援しています。将来迷ったり困ったりしてしまうことを、今させておかなければ。今からずっと続く未来をよりよいものにするのが私たちの役割です。グループホームは通過点と考えています」と、管理者の中島さん。支援者としての愛を感じました。

### グループホーム リンデンハウス

東京都西多摩郡日の出町大久野2184-1  
☎/Fax.042-597-6711



1 週に一度、夕食後に自分の近況報告会をしています。自分の思っていることを自分の言葉でみんなに伝えます。また一緒に暮らす仲間のことを知る大事な機会でもあります。2 みんな揃って食卓を囲みます。配膳から片づけまで、当番制になっていて、協力して行きます。3 今夜の献立は、あたたかいクリームシチュー。懐かしい母の味がしました。テーブルには一人一人の目標が貼ってあります。4 地域のお祭りの飾りを近所の公民館で作っています。ご近所さんたちが作り方を丁寧に教えてくれます。(写真左:管理者の中島さん)。5 一緒に暮らす仲間みんなで参加しました。上手にできて楽しそう。6 手作りのポストなどがあり、にぎやかな玄関。

## 知恵と工夫で助かる人

長年に渡り、資源回収にご協力いただいた方より、歳のせいだ新聞が読めなくなって止めてしまったと申し訳なさそうにお話を頂くことがありました。若者の活字離れと違った問題でもあります。

さて、今年4月より障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）がスタートしました。これは障害があってもなくても、誰もが分けへだてなく、お互いに尊重して、暮らし、勉強し、

働いたりできるように差別を解消して、誰もが安心して暮らせる豊かな共生社会の実現を目的としています。障害を抱えられた方が地域で暮らすには、さまざまな障壁があります。この差別解消法では、障壁を少しでも解消する方法として合理的配慮が謳われています。典型的なものとしては、難しい漢字があるときは、フリガナを振る、誰かが代わりに読み上げるといったようなものがあります。

## コラム「福祉の時をつかむ」

このような、ちょっとした工夫や配慮で助かる人もたくさんいます。

これまで読み続けてきた新聞が、加齢により読めなくなるといったことにも配慮されることは必要ではないでしょうか。当法人の広報活動においても試行錯誤しながら配慮に努めなければならないと感じます。読者の皆様からも広報活動におきまして忌憚りの無いご意見を頂戴できればと思う幸いです。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

## 各事業所からのお知らせ



### 福祉作業所ひばり園

桜の咲く季節となり、今年も恒例のお花見にみんなで行ってきました。今年は暖冬、お花見を予定していた日の前に桜が散ってしまうのではないかと心配したものの、なんとか美しい桜を見ることができました。毎日の作業のことも忘れ、美しく咲く桜の木の下で仲間とふざけ合ったり、その様子を離れたところで見たりと様々でした。普段とは違うのびのびとした表情を見ることができました。

### リサイクルショップくれよん

リサイクルショップくれよんはおかげさ

で5周年を迎えました。4月初めには5周年記念5割引きセールを行いました。大盛況のうちに終わり、次回の期待が高まっています。くれよんは一足先に夏物の支度をしております。5月からは夏物の販売を始めたいと思っています。皆さまのお越しを、くれよん一同心よりお待ちしております。併せて、ご提供品もお待ちしております（ご提供いただける品物についてはホームページまたはスタッフまでお問い合わせください）。

### 福祉作業所スマイル工房

クッキー新商品のお知らせ。3月からくま



さんクッキーを新発売しました。パン・クッキー班の利用者さんが、それぞれくまさんの表情を作っています。目や鼻の位置によってくまさんの表情が変わってくるのでいろいろな顔のくまさんたちが出来上がります。まゆ毛があったり、ハートや星の髪飾りがついているくまさんもとどき現れます。くまさんクッキーは不定期で作っていますが、機会がありましたらどうぞよろしくおねがいします。

### 障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方等からの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜日開所は、4/2、5/7、6/4、7/2、8/6、9/3、10/1、11/5、12/3、1/7、2/4、3/4です。

※ご相談には予約をお願いします。

## 資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

### 編集後記

知らないことを知りたい。ならばスマートフォンやパソコンで検索すれば知ることできますが、人の気持ちや心の中を知ることではできません。そんな理由で今回の特集を立案しました。写真撮影の間の雑談や、原稿をいただくたび、みなさんのあたたかい想いや懐の深さに触れられて、人生の大先輩から学ぶことは本当に多いのだと、あらためて感じ、私の姿勢もピシャッと正されるというもの。これからは好奇心の赴くまま、知らないことを知り、思考や発想の幅を広げたいと思った春です。

## 各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局	☎042-578-0855
福祉作業所ひばり園	☎042-555-5512
福祉作業所スマイル工房	☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん	☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール	☎042-570-1233
指定特定相談支援事業所ゆい	☎042-555-5512